北海道医報
ISSN 0913-0217　2009.2.1. 第1085号
発行人　北海道医師会長　長瀬　清
発行所　北海道医師会
〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL (011) 231-1432　FAX (011) 221-5070
URL http://www.hokkaido.med.or.jp/
E-mail info@office.hokkaido.med.or.jp　頒価 1部 250円

節風季

キーワードは多様性

情報広報部副部長　藤井美穂

ＵＣＬＡに留学中、見つけたメッセージが、今も忘れられません。それは英語、日本語、スペイン語、中国語の４カ国語で書かれ、病院のエレベーターホールに掲げられていました。

「ＵＣＬＡヘルスケアコミュニティは、文化的にも、人種的にも世界で最も多様性に富んだ都市の一つに位置しています。この多様性はスタッフ、患者の構成にも反映されており、当病院の貴重な資産となっています。ＵＣＬＡヘルスケアはこれらの多様性、つまり、民族、国籍、人種、性別、性的指向、経済レベル、年齢、ハンディキャップの有無、といった違いを高く評価し、また尊重します。私たちはこれら人間の多様性についてさらに理解と認識を深め、また人間の尊厳を保持することに献身します。この献身は唯一、私たちコミュニティーの実践的な努力によってのみ実現が可能です」この中には差があることが財産であると明言しています。

明治以降、特に戦後、日本では平等の名のもとに、質を考慮しない悪平等が氾濫してしまいました。社会、教育現場でも差が明確化することを隠蔽し、その結果画一化した生き方が安定供給されてきたのでした。一人ひとりのもつ能力を認め、その力を最大限活かすこと、つまり多様性が財産であると評価されるようになったのは、ごく最近のことと思います。

ＮＨＫスペシャル「女と男」をご覧になった先生も多いと思いますが、番組では、数百万年という長い人類の歴史に男女の差の起源を求めています。ペンシルバニア大学の脳科学者、ルービン・ガー博士のグループが開発した、脳活動をＭＲＩでモニターしながらコンピュータ画面の表情から感情を読み取るテストの結果は、女性に比べ男性の脳活動が活発だったにもかかわらず、女性の方が成績が良かったと報告しています。数学の解答時でも同様に、男性の脳活動の方が女性を上回っていますが、成績は男女ともに変わらなかったという報告もあります。知能テストでは男女では異なった脳活動野が使われながら、しかし同じゴールに行き着くことが証明されました。過酷な生存競争を乗り切るために、男は狩猟という役割を果たす中で空間感覚を、女は収集役割の中で目印を利用する能力を磨いてきたという人類の歴史の中で、脳のネットワークが異なって発達した可能性が高いのだそうです。

また脳が発達し大きく、二足歩行するようになり産道が小さくなった人間は、まだ小さく未熟なうちに出産しなければならなくなり、育児には多くの時間をかけなければならなくなりました。そのため、子どもが確実に育つよう、夫婦で協力して子育てするという仕組みを発達させてきたのでした。

２００３年頃から全国的に女性外来が急激に増え、受診者の話をよく聴いて欲しいという社会ニーズと女性医師の診療の特徴が合致したと評価されています。「表情を読み取る」能力に優れ、Broca野を駆使して考えるという脳生理学的特徴をもつ女性と、空間感覚と解決策を提示する能力に優れている男性が、医療の現場で協力し合うことは、戦略的歴史を通して人類の祖先から受け継いできた自然であり必然の方法と思われます。

人類の脳は多様性に対応できる柔軟性を獲得しているという科学的根拠がある一方で、多様性という因子が社会を複雑化するために、これをできるだけ排除し単純な社会習慣を形成してきた歴史を変えるという作業は時間がかかるとは思います。しかしサイエンスのど真ん中にある医療の現場では、今が男性医師と女性医師、医師とメディカルスタッフの協働と相互補完を達成していくべき時であると痛感します。自分にはない能力を相手に発見し、その能力を互いに使って仕事することは効率が良く、しかも魅力的なことと思いませんか。